

武蔵野市学習者用コンピュータ通信

特別号

発行
武蔵野市教育委員会指導課
令和7年12月

市ホームページにも、これまでのバックナンバーを含め掲載しております。

「学習者用コンピュータ通信」を検索していただくか、二次元コードでアクセスしてください。



学習者用コンピュータ通信

検索

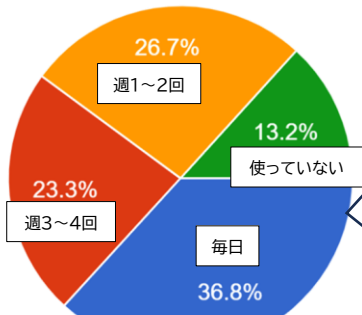


家庭における自律した学習者用コンピュータの活用状況が見受けられます

令和7年9月に「家庭における学習者用コンピュータ活用状況の把握のためのアンケート調査」を実施し、5,000人を超える児童・生徒、保護者の方から回答が集まりました。その結果から、武蔵野市の児童・生徒が家庭において自律した学習者用コンピュータの活用が進んでいることが分かりました。

【家庭での活用状況】

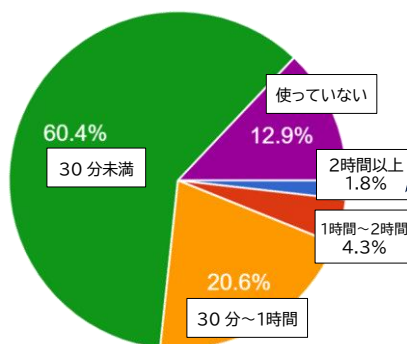
Q 家庭でどのくらい学習者用コンピュータを使っていますか。



児童・生徒回答

使用目的の上位
「授業の持ち物を確かめる」
「宿題をする」
「インターネットで調べものをする」

Q 家庭で1日にどのくらい学習者用コンピュータを使っていますか。

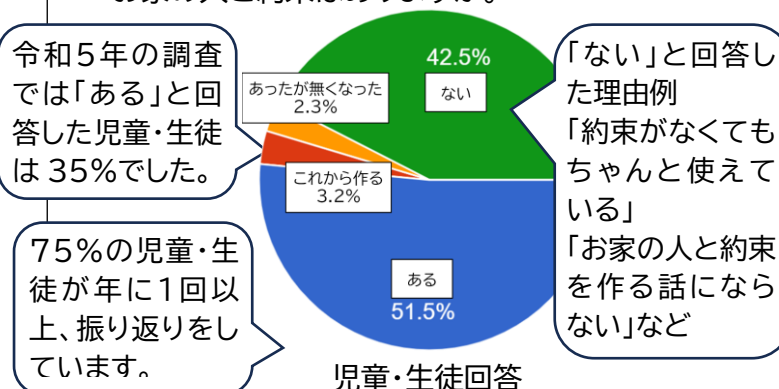


児童・生徒回答

保護者の回答も1時間以下と回答した割合が70%を超えていました。

【約束の状況】

Q 家庭で学習者用コンピュータを使うときにお家の人と約束はありますか。



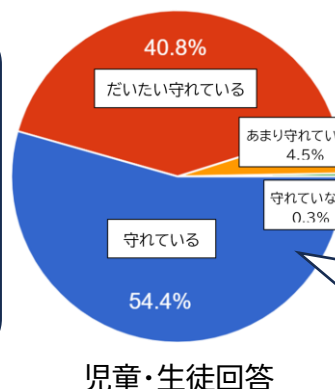
児童・生徒回答

令和5年の調査では「ある」と回答した児童・生徒は35%でした。

75%の児童・生徒が年に1回以上、振り返りをしています。

「ない」と回答した理由例
「約束がなくてもちゃんと使えている」
「お家の人と約束を作る話にならない」など

Q 約束は守れていますか



児童・生徒回答

約束が「ない」家庭も、70%以上の家庭で使い方に満足していると回答がありました。

この他には、学習者用コンピュータに関連して「自分の勉強の得意、不得意の教科や内容が分かるようになること」「SNSでだまされないなど、犯罪(はんざい)にまきこまれないようになること」を学びたいと考えている児童・生徒、保護者が多いことが分かりました。また、保護者のデジタル・シティズンシップ教育に対する認知度が令和5年の調査に比べ20%以上増加しており、学校の取組が浸透してきています。

(裏面あり)

ご家庭での情報モラル向上に活用してください

10月下旬に、市内公立小・中学校のICT活用推進リーダーが集まり、情報モラルについての研修会を開催しました。「日本教育情報化振興会」から講師の先生をお招きし、「ネット社会の歩き方」と題し、小・中学校における情報モラル向上の取組について講義及び協議等を行いました。その中で、講師の先生から保護者の方々に向けて以下の6点について話がありました。

- ① ネットや情報機器の良い点と悪い点を伝えましょう。
- ② 「～してはだめ」ではなく「～しよう」と話しましょう。
- ③ 子どもがスマートフォンをどのように使っているのか関心をもちましょう。
- ④ ネットや情報機器のことを話題にして流行していることなどを聞いてみましょう。
- ⑤ 家庭でのルールを作って守っていきましょう。
- ⑥ 家庭で何でも相談できる雰囲気づくりをしましょう。

「学習者用コンピュータの家庭での使用における約束」や、ご家庭でのスマートフォンの使い方について約束を作る際や、振り返って約束の内容を見直す際の参考にご活用ください。

教員も情報モラルについて研鑽を重ねています

また、学校と家庭の両方で意識して指導してほしいこととして、

- 実社会における課題解決には、情報技術の利活用が不可欠。一方で、便利な反面それをどう使うかが大事になっている。
- 「インターネット上には怖いことがあるから使うのはやめておけ」ではなく、「どうやって使えばいいのか」を学習することが大切である。
- 失敗も成功も学ぶためのもの。そのため、望ましくないことも経験することが重要。よく使う子どもほど色々考え、望ましい活用ができるようになる。

と話がありました。本市で進めているデジタル・シティズンシップ教育の考え方に通じる内容で、先生方も熱心に聞き入っていました。



【講師の先生の話をしている様子】



【グループで協議している様子】

研修の後半では、講義の内容を踏まえて具体的な指導方法をグループごとに作成後に全体で共有しました。明日からの指導にすぐに生かせる研修会となりました。